

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	オリーブハウス(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日 ～ 2025年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2024年 12月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別ニーズに応じた支援を行う為、利用者に合ったプログラムを作成し、1人1人に合った手厚い支援ができる。	利用者の成長に合わせ、都度支援プログラムを変更している。 また個別ニーズに合わせ、個別で未就学のみでの支援を行うお子様、就学を見据え放デイのお子様と一緒に活動をするお子様等、個々の成長や家庭環境、ニーズに合わせられるように工夫している。	個々の発達に合わせた療育を行う為の初期アセスメントをしっかりとっていく。成長に合わせ都度内容を見直せるように、職員間で情報を共有し、複合的な観点から内容を検討していく。
2	就学を見据えた練習として、学童期以上の異年齢の児童と関わる事ができる。異年齢の小集団で過ごす練習を行いながら、コミュニケーション能力を培い、就学に移行する準備が行える。	就学を見据え、少し大きな年齢のお子様と一緒に活動することで、小学校にスムーズに移行できるように意識している。活動の中で大きなお兄さん、お姉さんの姿に憧れが持てるように工夫し、小学生になる事への期待が具体的に持てるように取り組んでいる。設定療育や遊びの中で、思いやりの心や、意思表示出できる機会を意識的に設けている。	異年齢集団を活用しながら、個々のニーズにあった設定療育の組み立てを行っていく。異年齢集団の強みを活かしながら、社会性を身に付ける支援を行っていく。
3	保護者様からの相談が円滑に行えるような体制が整備されている。お子様の学校やご家庭でのご様子の情報を職員間で共有しながら、ご家庭と共に一体的な支援を行っている。	管理者以外の直接支援の職員も保護者様と送迎時や電話等でコミュニケーションを取る事を日頃から心掛けている。円滑な人間関係の構築を意識しながら、保護者様が安心してご相談して頂けるように、管理者の指揮のもと信頼関係の構築を心掛けている。	日頃から職員間で情報共有し、外部研修等で更なる知識を身につけ、保護者様や児童に寄り添った支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の場が少ない。保護者会の参加者が限定的であった。	おもちつきや流しそうめんなど、療育の中で保護者様にご参加いただける機会は設け、その後に保護者会を開催するなど参加して頂きやすいように取り組んできたのだが、ご参加下さるご家庭が限定的になってしまい、たくさんの保護者の方に交流していただけなかった。	未就学時のご家庭だけ等でも保護者会を開催するなど、今までにご参加のなかったご家庭をなどにもご参加頂きやすいような工夫が必要。
2	利用人数の定員の加減で、児童発達支援から放課後等デイサービスへの継続的な利用が困難。	放課後等デイサービスが利用定員に達しており、児童発達支援からの利用移行が現状困難である。	面談時にご利用曜日の変更等、次年度に向けての保護者様の意向をお聞きし、次年度の空き状況を早めに把握できるように努める。移行することが難しい場合は、今年度同様に早めに保護者の方にお伝えし、別の法人の放課後等デイサービスを探していただくようご案内する。
3	避難訓練や防災訓練を実施しているが保護者様に周知されにくい。	安全計画に基づいて訓練を行っているが、訓練をした報告を保護者様に行っていない為、訓練を行っているか分からないと言ったお声がある。	今後は、SNSや連絡帳等で活動報告を行い、訓練を行っている事やどのような訓練が行われているかなど様子が分かるようにできるように検討する。